



II. セツ

聖書は、アダムとエバの祈りについては実質的に沈黙しています。一方で、彼らの墮落と園からの追放後のしばらくの間、“神を呼び求める”という点については、不十分ながら次のような記述が見られます。

「セツにもまた男の子が生まれました。彼は、その子をエノシュと名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた」(創 4:26)。

セツがその子をエノシュと名づけたことと人々が主の御名を呼び求め始めたこととの間には、少し関連があるように思われます。というのも、「エノシュ」という言葉は、「人」ないし「人々」という意味であり、かつ、人が死ぬべき存在、限りある存在であることを強調する言葉だからです。この頃までには、死が人類共通の運命であることが明白なものとなっていたに違いありません。この時代の人々は、自分たちの弱さと人間の命の脆さというものに気づいていました。また、神との関係を妨げるものにも気づいていたのかもしれませんが。このセツの例にあるように、すなわち、人々が「主の御名によって祈ることを」始めた時の例のように、しばしば、そのようなことに気づくということこそが、霊的なものを求めること、信仰面における刷新が起こることのきっかけとなるものです。ここに、祈りの原則としてのもう一つの原則があるのです。神を意味ある形で呼び求めるようになるに先立ち、まずは自らの抱えているニーズに気づくことが必要だという原則です。

この箇所使われているヘブライ語を見ても、祝福が下されることを主の御名によって求めること、また、自分たちを主の御名によって呼ぶことを示唆するものになっています。すなわち、人々は、神が自分たちのために抱いてくださっている素晴らしい目的を認識するとともに、自分たちを神の民として理解したのです。

中でも特に重要なことは、人々が「主の御名」を呼び求め始めたという事実です。「主」とは「ヤハウエ」という言葉であり、これは、神が私たちと共にいてくださる方であるということに注意を向けさせる名前、個人的で、かつ契約を守るという意味合いの名前なのです。祈りの結果は、いつ何時も、祈りのうちに語りかける方と直接に結びついています。例えば、バアルの預言者たちの祈り方を、エリヤの祈り方と比べてみましょう。

そこで、彼らは与えられた雌牛を取ってそれを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んで言った。「バアルよ。私たちに答えてください。」しかし、何の声もなく、答える者もなかった。そこで彼らは、自分たちの造った祭壇のあたりを、踊り回った。(I列王 18:26)

ささげ物をささげるところになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があるのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行なったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してください。すると、主の火が降って来て、…。(I列王 18:36-38)

バアルの預言者たちは、バアルという、人間の手が作り出した、命の無い、力の無いものに祈りを捧げていました。しかし、エリヤは主ヤハウエという、自ら存在し、永遠の、契約をお守りくださる神に祈っていました。この神は、地上の全家族に加え、アブラハム、イサク、そしてイスラエルに対して約束をお交わしになった方でした(創 12:3)。主の御名を呼び求めるという行為は、セツとともに始まったものですが、その息子エノシュによっても熱心に伝えられ、エリヤの日にも、有効なものとして受け継がれていたのです。



第1章

族長たちとその時代の人々の祈り

セツ



Check!

- 『聖書の祈りが私の祈りになる』（旧約編） 49～52ページ
- 主な引用箇所 創世記4章26節、列王記第一18章26節、36～38節



質問

- 1 エノシュという言葉にはどのような意味がありますか？（50ページ参照）
- 2 主の御名を呼ぶとは礼拝するという意味です。セツの子たちは、社会が乱れていく中で、主を礼拝する大切さを悟ります。あなたはどのような時、礼拝の大切さを感じますか？個人的な日々の礼拝をささげるために、あなたが工夫していることがありますか？
- 3 セツやエノシュの祈りの姿に、どのような祈りの原則を発見できますか？（50ページ参照）
- 4 「主（ヤハウェ）」ということばにはどのような意味がありますか？（50～51ページ参照）もともと家族や知人が信じていた神が、自分自身の神でもあるとあなたが気づいたのにはどんなきっかけがありましたか？
- 5 あなたは祈りを通して信仰上の刷新が起こったことがありますか。
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



主よ。日々の忙しさの中にあってもあなたを呼び求める礼拝を毎日大切にすることができるように助けてください。私の真の必要を教え、信仰を刷新してくださるよう。